

# 科技高 いきもの記

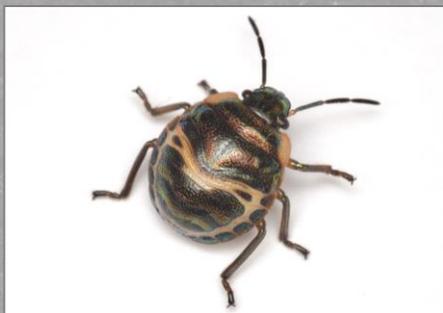
Vol.51 2022.5.12

生物教員 佐藤龍平

## カメムシの常識を覆す超美麗種 アカスジキンカメムシ



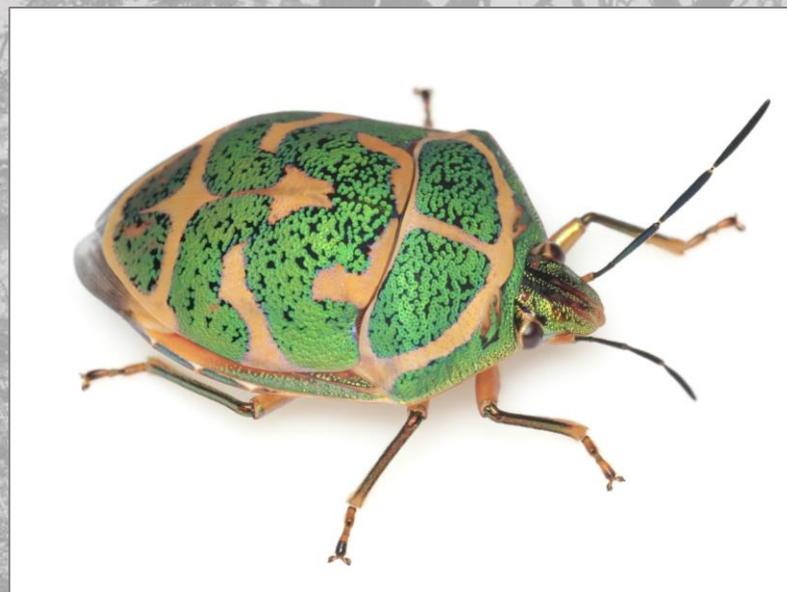
終齢（5齢）幼虫 2021年10月18日  
パンダを思わせる配色が可愛らしい。幼虫のまま越冬する。



3 齢幼虫 2021年8月26日 リョウタロウ採集



羽化の瞬間・黄金の成虫が現れた！（5月10日）  
4月に採集して飼育していた幼虫が羽化し始めた。念願の瞬間だ！



羽化後15時間経った様子（5月11日）  
前日とはまるで別モノの色彩だ。赤と緑の配色が特徴的で、頭などは金属光沢がある大変美しいカメムシだ。



頭部アップ 背中の緑色はかなり緻密な模様できている。この美しい色彩と輝きは死ぬと失われてしまう。

知っている人も多いと思うが、私が一番好きな昆虫は“カメムシ”だ。クサカろうが何だろうが、あの可愛い顔が大好きなのだ。ただ、みなさんもお気づきの通り、すでにvol.50まで書いてきたこの“いきもの記”にカメムシの話題は今までひとつもない。それは、「カメムシの話を載せるなら最初は絶対アカスジキンカメムシがいい！」と謎の自分ルールを作ってしまったからなのだ（本当はもっと早く紹介できるつもりでいた。誤算だった…）。そこまでこだわる理由は、写真を見てももらえれば分かるだろう。この美しい姿を見せることで、カメムシの負のイメージを払拭したいと思ったのだ！世の中にはこんなに美しいカメムシがいるのだよ、諸君。今回は幸運にも、羽化の瞬間に立ち会うこともできた。金色の新成虫が少しずつ出てくる姿を見て、あまりの美しさに感動しっぱなしだった。ちょうど、（自由奔放で有名な）昆虫班の部員が全員集結している日だったこともラッキーだった。みんなで羽化の様子を観察することができた。

アカスジキンカメムシが猿江にいることを初めて知ったのは、昨年5月のこと。抜け殻を見つけたのだ。その後、生きた幼虫を初めて見つけたのは卒業生のリョウタロウで、昨年の夏のことだ。そのあたりから公園を探しまくったのだが、幼虫は見つかるも成虫がなかなか見つからない。丸1年かかってようやく成虫の美しい姿を拝むことができた。いやぁ今年度も良い1年になりそうだ。

参考文献：小林尚、立川周二(2004)、図説 カメムシの卵と幼虫、養賢堂